

No. 11

公益財団法人東洋哲学研究所

NEWSLETTER

目次

研究所紹介	1
「法華経——平和と共生のメッセージ」展 累計鑑賞者 100 万人特集	2-9
「法華経写本シリーズ」	10-11
第 38 回学術大会	12-13
連続公開講演会「AI と信仰・宗教・思想」	14-15
研究活動	16-17
ニュース	18-19
出版物	20
定期刊行物	21-23
論文検索・Instagram 紹介	24

「IOP NEWSLETTER」No.11 では、公益財団法人東洋哲学研究所が 2024 年に推進してきた研究活動のトピックスを紹介します。

※所属、肩書、講演会タイトル等は当時のものです

研究所紹介

創 立 者：池田 大作 創価学会インタナショナル（SGI）会長
代表理事・所長：田中 亮平

【沿 革】

1962年（昭和37年）1月27日 開所

1965年（昭和40年）12月3日 財団法人設立

2010年（平成22年）11月18日 公益財団法人認定

【設立趣旨】

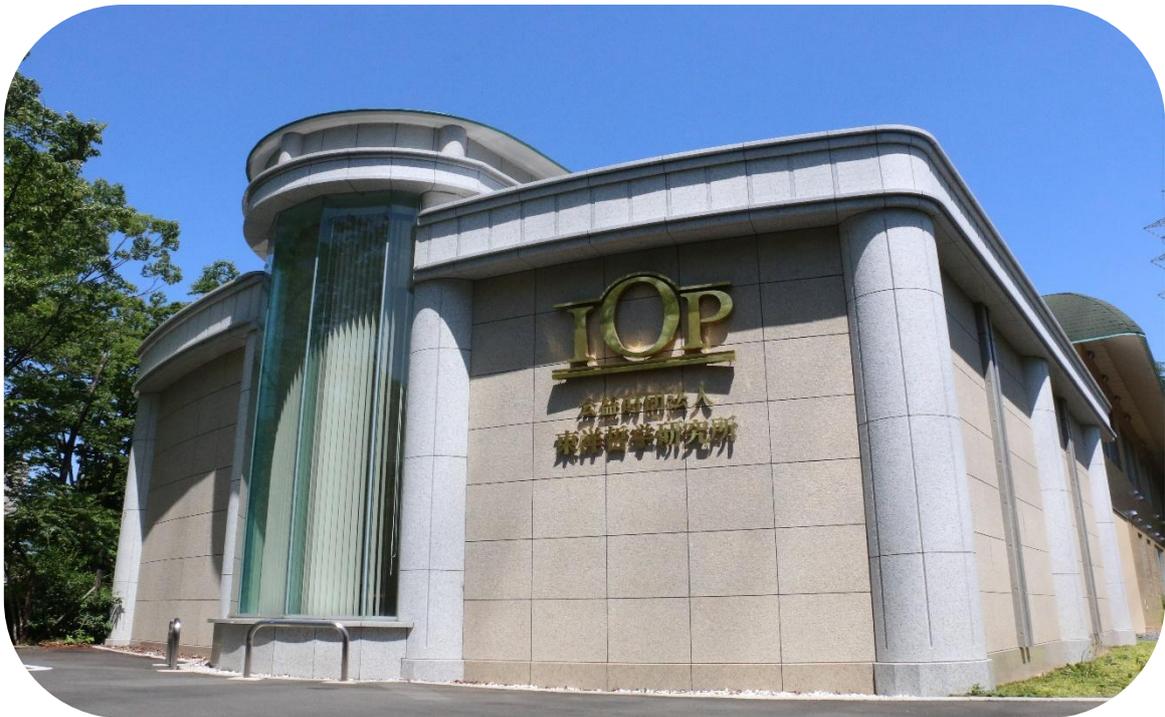
東洋思想、なかんづく仏教のすぐれた思想・哲学を研究するとともに、各学問分野との学際的研究を推進。その成果をもって、人類が抱える諸課題の克服に貢献する。

【所 在 地】

住所：〒192-0003 東京都八王子市丹木町 1-236

T E L：042-691-6591 / FAX：042-691-6588

開館：月曜日から金曜日（午前10時～午後5時）





「法華経——平和と共生のメッセージ」展 国際イスラーム思想・文明研究所（ISTAC） 2,700人が鑑賞

イスラーム文化圏であるマレーシアで2度目となる「法華経——平和と共生のメッセージ」展の国際イスラーム思想・文明研究所（ISTAC）での開幕式が9月8日、首都クアラルンプールの同研究所で盛大に開催された。

同展は、ISTAC、マレーシア創価学会（SGM）と東洋哲学研究所が主催し、マレーシア国民統合省が後援する記念行事「平和と共生の普遍的価値」の一環として位置づけられ、ISTAC による「イスラームにおける平和と共生」展も行われた。また、記念シンポジウム「平和と共生の普遍的価値」も開催され、ISTAC のオスマン・バカル名誉教授とヌルル・アイン・ビンティ・ノーマン研究部長、東洋哲学研究所の田中亮平所長とポイ・チョンメイン海外研究員が講演した。

開幕式には、主賓として、国民統合省のアロン・アゴ・ダガン大臣の代理としてサラスワティ・カンダサミ副大臣らが列席。スペイン、イラン、アゼルバイジャンの駐マレーシア大使をはじめ、同国の教育・学術界、宗教界の代表、マレーシア国際イスラーム大学の学生、SGM のメンバーなど300人が出席。オンラインでも配信された。ISTAC のアブデルアジズ・ベルグート所長、SGM の許錫輝理事長、東洋哲学研究所の田中所長が主催者を代表して挨拶した。また、同展では開催を記念する『ガイドブック 法華経展』（英語、中国語・簡体字）新装版が SGM より刊行された。当研究所の法華経展では初となる宗教研究機関での実施となった同展は、期間中 2,700 人を超える鑑賞者が訪れた。



開幕式・シンポジウムより



マレーシア国民統合省
サラスワティ・カンダサミ 副大臣

アロン・アゴ・ダガン大臣のメッセージ
より（要旨）

法華経展は大乗仏教の最も深遠な経典の一つである法華経の教えを紹介したものであり、そこには生命の尊厳の尊重、全ての存在の悟りの可能性、慈悲の重要性が強調されています。

このことは、現代世界に大きなメッセージを伝えており、法華経の教えが単なる歴史的遺物ではなく、今日の世界においても私たちを導き、啓発を与える生きた哲学であることを物語っています。



ISTAC
オスマン・バカル 名誉教授

講演「イスラームとは——平和と共生の視点から」より（要旨）

イスラームの教えと法華経の教えには、平和と調和的共生という共通の理念があります。特にクルアーンは全ての神聖な書物を尊重し、理解することを奨励しており、私たちムスリムが法華経を含む他の聖典を研究することは重要だと考えます。

また、マレー文化における蓮は平和を象徴しますが、それはイスラーム神秘主義と仏教の教えに共通するものであり、池田 SGI 会長の思想である平和と共生もイスラームの教えと合致しています。法華経展を通じて、イスラームと仏教の対話と相互理解が深まっていくでしょうし、両者の共通の価値観に基づく平和構築が大切だと思います。



ISTAC
ヌルル・アイン・ビンティ・ノーマン
研究部長

講演「考えること・受け入れること・信じること——思想と信仰を通じた人類の旅」より（要旨）

イスラームと仏教には多くの共通点があります。私は特に植物の種の比喩を用いて、人間の思想と信仰の発展について考えていました。これは法華経展のテーマ「平和と共生」にも通じています。両宗教の教えには思考を通じて神の導きや悟りを求め、心で真理を受け入れ、魂で信念を深めていく共通のプロセスがあります。

対話と相互理解は非常に重要であり、異なる宗教の本質は光のように同じで、人類の精神的成長の過程を表していると考えます。これは池田 SGI 会長が長年提唱してこられた宗教間対話の意義と同じなのです。



「法華經——平和と共生のメッセージ」展

SGI アジア文化教育センター (ACEC) 44,000 人が鑑賞

「法華經——平和と共生のメッセージ」展のジョホールバル・SGI アジア文化教育センター (ACEC) での展示会が 10 月 18 日に一般公開され、同月 20 日に開幕式が行われた。

展示会には約 200 点の写本の複製、仏教芸術に由来する文物などが出品された。同展の後援機関には、ISTAC 展から新たに観光・芸術・文化省国家遺産局が加わった。展示会場の入り口には鮮やかな記念ボードを設置。ISTAC 展と同様にマレーシアでの展示パネルは、多民族国家を考慮し、全ての表記・解説において英語・中国語の 2 言語を使用した。

開幕式には、ジョホールバルの政財界、教育・学術界から来賓をはじめ、主賓として、ジョホール華人尊長でスルタナ・フアティマ財団のデイビッド・ウォン会長、マレーシア国際イスラーム大学前学長のタン・スリ・ダト・ズルキフリ・アブドゥル・ラザク名誉教授のほか、SGM、シンガポール創価学会（SGS）のメンバーなど650人が出席。オンラインでも配信され、1500人が視聴した。式典ではマレーシア国歌斉唱の後、主催者を代表してSGMの許錫輝理事長、東洋哲学研究所の小関博文常務理事が挨拶。ズルキフリ・アブドゥル・ラザク名誉教授が祝辞を述べた。そして、オープニング・アトラクション、記念品贈呈に続いて、SGMの青年メンバーによる記念演奏と舞踊が披露された。

開幕式終了後の参加者の内覧会に続き、法華経展開幕の記念講演会が行われた。ここでは、東洋哲学研究所の蔦木栄一委嘱研究員が「法華経展とイスラーム文化」をテーマに発表した後、梶川貴子研究員が「仏教と女性」と題して講演を行った。この日、マレーシア最大の中国語紙「星洲日報」や「中国報社」、英字紙「ザ・スター」などマスコミ各社が取材に訪れた。同展は12月29日まで開催され、期間中の鑑賞者は44,000人に上った。マレーシアの法華経展は、9月のクアラルンプールでのISTAC展の2,700人と合わせ、4万6,800人となった。

◆企画・制作：東洋哲学研究所

◆主催：東洋哲学研究所、敦煌研究院、マレーシア創価学会

◆後援：ロシア科学アカデミー東洋古文書研究所、インド文化国際アカデミー、マレーシア国民統合省、国際イスラーム思想・文明研究所、マラヤ大学文明間対話センター、*観光・芸術・文化省国家遺産局
*SGIアジア文化教育センターでの展示のみ後援

◆会場・期間：国際イスラーム思想・文明研究所（クアラルンプール）2024年9月8日～28日

SGIアジア文化教育センター（ジョホールバル）2024年10月18日～12月29日

記念講演会に敦煌研究院・王慧慧研究員を招聘

法華経展の開催を記念する講演会が12月14日と15日の2日間にわたって開催された。これは、2018年から東洋哲学研究所と学术交流協定を結ぶ敦煌研究院より、石窟文物保護研究陳列センター副主任の王慧慧研究員を招聘して実施された。

14日は、ACECにて「法華経の歴史的文物と現代世界へのメッセージ」を

テーマに講演会を開催した。王研究員は「法華経が示す『衆生平等』『万人に仏性がある』という思想と、敦煌石窟に表現された多民族・多文化共生の精神は本質的に一致している」と強調。また「池田大作先生が示された『全人類が生命の根底から蘇生し、全世界が真の平和の楽土となる』という思想こそが法華経の根本目的である」と述べた。翌15日には、セラソール州チエラスのマレーシア文化会館にて「常書鴻と池田大作」をテーマとした講演会を実施した。



アジア、欧州、南米など世界 17 カ国・地域で開催

「法華経——平和と共

「法華経——平和と共生のメッセージ」展は、東洋哲学研究所が企画・制作する展示会で、2006 年からスタートした。同展は、研究所が進める法華経研究の成果を広く公開するとともに、法華経の伝播の歴史と経典の内容を分かり易く紹介するものである。研究所では創業者・池田 SGI 会長の指針のもと、「法華経とシルクロード」展（1998 年～2000 年）、「法華経——世界の精神遺産」展（2003 年～04 年）、「法華経——平和と共生のメッセージ」展（2006 年～現在）を開催。その間、「仏教経典：世界の精神遺産——写本と図像で知る法華経」展（2016 年～現在）等も行ってきた。

法華経展は池田 SGI 会長とロシア科学アカデミー東洋学研究所（現・東洋古文書研究所）のユーリ・ペトロシヤン所長との友誼を淵源とし、1998 年開催の「法華経とシルクロード」展では、ロシア科学アカデミー東洋古文書研究所が所蔵する約 10 万点に及ぶコレクションの中から、オリジナルの仏典写本、木版本など 14 言語 47 点が日本初の公開となった。それらを発展・拡充したのが「法華経——平和と共生のメッセージ」展である。ロシア科学アカデミー東洋古文書研究所、中国・敦煌研究院、インド文化国際アカデミーの全面的な協力により、法華経写本の画像および複製の公開や敦煌莫高窟の再現、仏教文物・各種資料の提供なども行われている。その出品物には、8 世紀書写とされるペトロフスキー法華経写本や 1～2 世紀書写のガンダーラ語の法句経の複製などが含まれる。また、敦煌莫高窟の壁画に描かれた飛天の模写絵や、敦煌文書の法華経（複製）をはじめ、経典書写の際に使用された鉄筆や白樺の樹皮の複製品など、展示全体で約 160 点に及ぶ文物が出展されている。また研究所では、同展を解説した『ガイドブック法華経展——平和と共生のメッセージ』を編纂し、日本語、英語、韓国語、中国語（簡体字・繁体字）の 4 言語で刊行している。

「目で見る法華経」をコンセプトとして、日本だけでなく仏教発祥の地であるインド、ネパールやイスラーム文化圏のマレーシア、上座部仏教国のタイなどアジア各地をはじめ、ヨーロッパ、南米で開催。世界 17 カ国・地域で 100 万人以上が鑑賞する展示会となっている。これまで、韓国の李壽成元首相、タイのウィーラ・ロートポッチャナラット文化大臣、香港中文大学終身主任教授の饒宗頤博士、翻訳家のバートン・ワトソン氏など各界を代表する来賓も展示会に訪れている。

さらに展示には、「法華経の多様な写本を拝見しました。これらは、仏教精神への理解を深め、『法華経』のメッセージを世界に広げていく為のこのうえない資料です」（アルゼンチンサルバドル大学東洋学院カルロス・マヌエル・ルア院長）、「仏教の普遍的価値を浮き彫りにし、人類の精神的遺産の一部とする歴史的な展示会です」（インド国立公文書館ムシルル・ハサン館長）等の声が寄せられている。



「目で見る」「対話する」法華経展

生のメッセージ」展



スペイン・マドリド展（2009年）



シンガポール展（2017年）



神戸展（2012年）



ブラジル・サンパウロ展（2011年）



マレーシア・クアラルンプール展（2014年）



台湾・桃園展（2015年）



タイ展（2017年）

「法華経——平和と共生のメッセージ」展 開催国・地域

1	香港	2006年～2007年、2015年
2	マカオ	2007年
3	インド	2007年、2008年、2009年、2010年
4	スペイン	2009年、2012年
5	ネパール	2010年
6	ブラジル	2010年、2011年
7	スリランカ	2011年、2013年
8	イギリス	2011年
9	日本	2012年、2013年、2014年
10	台湾	2013年、2015年
11	マレーシア	2014年、2024年
12	アルゼンチン	2014年
13	韓国	2016年、2018年、2022年
14	ペルー	2016年
15	タイ	2017年
16	シンガポール	2017年
17	インドネシア	2019年

累計鑑賞者数が



万人に



マレーシア・ジョホールバルの SGI アジア文化教育センター（ACEC）での「法華経——平和と共生のメッセージ」展で 2024 年 11 月 3 日、これまで実施してきた法華経展の世界 17 カ国・地域での累計鑑賞者数が 100 万人に到達した。仏教の一つの経典をテーマに国内外を巡回し、これほどの鑑賞者を数えた展示会は他に例がない。同展は、法華経に脈打つ精神を過去の遺産とするのではなく、現代に生きる経典として蘇らせることを目的として各国・地域で開催してきた。

記念のセレモニーでは 100 万人目の鑑賞者への記念品贈呈、祝賀ダンス披露の後、マレーシア創価学会（SGM）の許錫輝理事長、東洋哲学研究所の田中所長が挨拶（ビデオメッセージ）した。さらに、敦煌研究院の趙声良党委書記（元院長）、ロシア科学アカデミー東洋古文書研究所のイリーナ・ポポワ所長、国際イスラーム思想・文明研究所（ISTAC）のアデルアジズ・ベルグート所長、マレーシア国際イスラーム大学前学長のタン・スリ・ダト・ズルキフリ・アブドゥル・ラザク名誉教授から 100 万人を祝賀するビデオメッセージも寄せられた。

ビデオメッセージ

敦煌研究院 趙声良党委書記（元院長）

東洋哲学研究所は長年にわたって世界平和事業の推進に尽力されるとともに、人と人との間の心の通じ合いを促進してこられました。「法華経」は大乗仏教最古の経典の一つとして、千年以上にわたって「平等」「智慧」「慈悲」の思想もって、アジアの諸国に広範なる影響を与えてきました。



東洋哲学研究所は「法華経」思想をテーマに、豊富な「法華経」の文献資料、各ジャンルの文物並びに敦煌壁画（複製品）等を初めとする画像資料を通じ、内容が豊富かつ主題が鮮明で観賞価値に富んだ「法華経——平和と共生のメッセージ」展を企画され、仏教の主張する「平等」と「共生」の思想を全面的に示しておられました。こうした展示会のおかげで、法華思想は絶えず善良なる考えを追求し、戦争に反対し、平和へと向かうよう益々多くの人々を鼓舞し続けております。長年にわたって、敦煌研究院と貴研究所は良好なる協力関係を維持しております。敦煌研究院が法華経展の為に関連資料を提供させていただくことで、展示の円滑な進行にお力添えできておりますことを、私どもは深く光栄に感じております。

池田大作先生並びに創価学会、東洋哲学研究所は、敦煌研究院の文物の保護及び研究に対し、絶大なる関心と支持とを与えることで、中日の友好と文化交流の発展に多大なる貢献をなされました。今後とも、私どもは双方の学術文化面における交流をより一歩深化させ、引き続き法華経展の開催を支持し、ともどもに国際平和と人類文化の発展を推進して参ります。法華経展が世界各地において今後も続けられていくだけでなく、絶えざる成功を収め、平和の声をあまねく世界に伝えられますよう、お祈り申し上げます。

国際イスラーム思想・文明研究所（ISTAC） アブデルアジズ・ベルグート所長

異なる文化や文明を持つ人々の中の平和と調和的共生のメッセージを広め、推進する素晴らしい取り組みに対し、心より御礼とお祝い申し上げます。ISTACとして、東洋哲学研究所とこの展示会で協力し、平和と共生の価値を広めることができるのは、大きな栄誉です。



100万人の参加者を達成したことは、法華経の哲学と教えが示す平和と共生が大きな成功を収めていることを示す素晴らしい指標です。今後さらに何百万人もの人々がこの平和と共生のメッセージに賛同されることを願い、皆様の今後のさらなる成功をお祈りしております。

ロシア科学アカデミー東洋古文書研究所 イリーナ・ポポワ所長

私どもと東洋哲学研究所との実り多い協力関係は1996年11月に始まりました。その最初が、本展の前身となる1998年11月に開催された「法華経とシルクロード」展であったことを誇りに思っています。

その後、当研究所のコレクションから、14言語による仏教関連の写本や版本の複製品および実物が展示されました。これらの主要なテーマは常に、最も影響力があり崇拜される大乘仏教経典の一つである法華経であったのです。法華経は、常に平和を志向し、異なる民族の世界を理解するための鍵となるものです。そのため、この経典は多くの言語に翻訳されました。その中には現在も使用されている言語もあれば、既に消滅した言語もあります。しかし、失われた言語による経典も今なお生き続けており、このことは法華経の不滅の価値を証明しています。この展示会が大きな成功を収め、仏教文化、古代の文書、そしてアジアの歴史に関心を持つ多くの鑑賞者を魅了することを確信しております。

「法華經写本シリーズ」全 18 タイトル 20 点

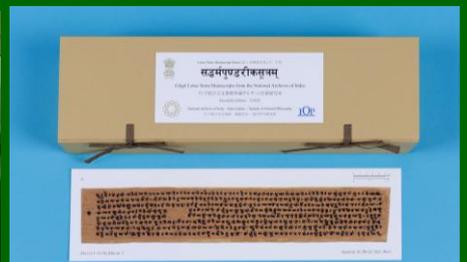
法華經など仏教經典は、白樺の樹皮や貝葉（ヤシの一種であるターラ樹の葉）、紙などに書き写した「写本」として、保存・流布された歴史がある。梵語（サンスクリット語）で書かれた現存の法華經写本は、出土した地域や書写された場所によって「ネパール系写本」「ギルギット系写本」「中央アジア系写本」に大別される。中でも「中央アジア系写本」



本」で最大のもは、1893 年にカシュガル駐在のロシア総領事ニコライ・F・ペトロフスキーが入手したもので、「ペトロフスキー本」あるいは「カシュガル本」等と呼ばれている。分量は全体の 80%程度が残っており、法華經研究において重要な位置を占めている。次に「ギルギット系写本」は 1931 年、カシミールのギルギット近郊（現在のパキスタン）の仏塔跡から発見された。「ネパール系写本」の源流である。

「ネパール系写本」は、ネパールおよびチベット由来の比較的新しい写本で、点数も完本も多いので、本格的な写本研究には不可欠のものである。これらの貴重な写本は、各国の学術機関・図書館などに所蔵されているが、書写されて何百年も経過しているため、全ての資料の公開は実現していない。

1994 年 1 月、創立者・池田 SGI 会長の提案により、写本研究を推進するために創価学会と東哲の共同事業として「法華經写本シリーズ」出版委員会が発足。以来、所蔵機関などの協力を得て、最新の写真・印刷技術を駆使して精密なカラー写真を印刷した「写真版」と、写本の「読み」をローマ字化した「ローマ字版」のシリーズが刊行されてきた。同シリーズは写真版とローマ字版が合体しているものが 2 点、写真版のみが 5 点、ローマ字版のみが 9 点、校訂本（ローマ字版に異読の注を付けたもの）が 2 点、西夏語が 2 点で合計 20 点となる。



「法華經写本シリーズ」一覧

- 1 旅順博物館所蔵 梵文法華經断簡 — 写真版及びローマ字版
- 2-1 ネパール国立公文書館所蔵 梵文法華經写本 (No. 4-21) — 写真版
- 2-2 ネパール国立公文書館所蔵 梵文法華經写本 (No. 4-21) — ローマ字版 1
- 2-3 ネパール国立公文書館所蔵 梵文法華經写本 (No. 4-21) — ローマ字版 2
- 3 カーダリク出土 梵文法華經写本断簡
- 4 ケンブリッジ大学図書館所蔵 梵文法華經写本 (Add. 1682 および 1683) — 写真版
- 5 東京大学総合図書館所蔵 梵文法華經写本 (No. 414) — ローマ字版
- 6 ロシア科学アカデミー-東洋学研究所サクトペテルブルク支部所蔵 西夏文「妙法蓮華經」
— 写真版 (鳩摩羅什訳対照)
- 7 英国・アイルランド王立アジア協会所蔵 梵文法華經写本 (No. 6) — ローマ字版
- 8 パリ・アジア協会所蔵 梵文法華經写本 (No. 2) — ローマ字版
- 9 大英図書館所蔵 梵文法華經写本 (Or. 2204) — 写真版
- 10 ケンブリッジ大学図書館所蔵 梵文法華經写本 (Add. 1684) — ローマ字版
- 11 大英図書館所蔵 梵文法華經写本 (Or. 2204) — ローマ字版
- 12 インド国立公文書館所蔵 ギルギット法華經写本 — 写真版
- 13 ロシア科学アカデミー-東洋古文書研究所所蔵 梵文法華經写本 (SI P/5 他) — 写真版
- 14 コルカタ・アジア協会所蔵 梵文法華經写本 (No. 4079) — ローマ字版
- 15 ネパール国立公文書館所蔵 梵文法華經写本 (No. 5-144) — ローマ字版
- 16 プリンストン大学図書館所蔵 西夏文妙法蓮華經 — 写真版及びテキストの研究
- 17 ギルギット・ネパール系梵文法華經写本校訂本 (C3 校訂本)
- 18 梵文法華經写本 (C4) 校訂本 — ネパール・ギルギット・中央アジア系写本異読対照



第38回学術大会

シンポジウムテーマ 「AI と信仰・宗教・思想」



オンラインと併用で行われた学術大会シンポジウム。現代的なテーマに対するそれぞれの分野からの視点が披歴され、活発な質疑応答が行われた（創価大学で）

第38回学術大会が5月25、26日に東京・八王子市の創価大学において、対面とオンラインで開催された（大会は、Zoomを經由してYouTubeで限定配信され、国内外の研究員が視聴）。研究所の学術大会は、国内外の研究員・委嘱研究員が集い、法華経研究をはじめ宗教間・文明間対話、平和と人権、環境問題などの課題克服の研究成果を発表する機会であり、それぞれの専門・研究分野を踏まえたテーマで発表を行った。

1日目（5月25日）のシンポジウムでは、人類社会の喫緊の課題であり、人知を超えたとさえ言われるAI（人工知能）と人間がどう関わるのかを探求するために企画された。2024年は創立者・池田SGI会長と理論物理学のアナトーリ・ログノフ博士との対談『科学と宗教』の発刊30周年の節目の年でもあり、科学と宗教、信仰と理性に及ぶ領域も踏まえた議論を目的とした。

講演者として、犬塚潤一郎氏（実践女子

大学教授）と濱田陽氏（帝京大学教授）を招聘して講演を行った。当研究所からは山本修一主任研究員と篠宮紀彦委嘱研究員が発表を行った。田中亮平代表理事・所長の挨拶の後、以下の講演・発表が行われた。

●無痛社会と人工共感：痛みを感じるAIはシンギュラリティなのか？

篠宮紀彦（委嘱研究員）

AIは膨大な量のデータと計算資源により高度な結果を生み出すが、人間は心による質的な力を生み出すことができる。「痛み」は生命の根源的な煩惱と直接的に関係しており、池田先生は痛みを遠ざけようとする現代文明を「他化自在天」の働きと言及した。無痛化する現代において、AIが痛みや共感・苦しみを理解できるかを考察することは重要なテーマである。

●仏教の立場からAIの発展に望むこと

山本修一（主任研究員）

AIの知識は世代を超えて失われず、人間が作

ってきたものとは別次元と言える。AI が人智を超える可能性が指摘される中、宗教も対応を迫られている。経典や書籍のデータ化、人間関係の構築への活用は考えられるが、感情を持たないAIが人間になりえるとは考えられない。その使用方法について、誤りのない議論が必要である。

●人工知能の得体の知れなさにいかに向き合うか
濱田陽（帝京大学教授）

AI はブラックボックスと呼ばれ、技術者ですら動作の全てを理解できない。多くの情報を吸収し何かを生成する現状がある。倫理的制約があるとされるが、特殊な操作で予想外の言葉が生まれることもある。AI は人間にできないことも可能だが、人間の力とは本質的に異なる。AI によるカウンセリングは理屈として成立しても、根本的な悩みや痛みは解決できない。究極的な解決のない苦悩において、最終的に宗教の存在が重要になるだろう。

●言語世界と言葉の経験

犬塚潤一郎（実践女子大学教授）

AI は自動運転やビッグデータ活用など、すでに



左から実践女子大学の犬塚潤一郎教授、帝京大学の濱田陽教授、東洋哲学研究所の篠宮紀彦委嘱研究員

身近に存在し人間の能力を補完している。しかし、LLM（大規模言語モデル）は、これまで機械化されなかった言語を人間抜きで動かそうとしている。AI が学習する言葉は意味を理解するプロセスではなく、記号として意味が排除されたものである。人間的な働きをし、人間を超えたように見える現在の状況は、人間性の危機が極大化している。こうした状況において、人間とは何か、人間性とは何かを問うことが重要である。

研究発表大会（5月26日）

- 鳩摩羅什訳経論における調達と提婆達多
（前川健一 研究員）
- 形骸化した道德悪からの脱皮
（大久保俊輝 委嘱研究員）
- 「紋中紋」（Mise en Abyeme）とナラトロジーの問題
（寒河江光徳 委嘱研究員）
- 対立と共存のビッグヒストリー
（岩木秀樹 研究員）



右から、東洋哲学研究所の田中亮平所長、山本修一主任研究員、司会の蔦木栄一委嘱研究員

連続公開講演会 統一テーマ 「AI と信仰・宗教・思想」

人工知能（AI）への過度な期待と不安が広がるなか、創立者・池田 SGI 会長とモスクワ大学元総長のアナトーリ・A・ログノフ博士による対談集『科学と宗教』（1994 年刊）の視座から、人間の知性と精神の本質、そして AI と人間の共生について考察する連続講演会を開催。科学と宗教が協調しつつ発展し、人類の幸福に貢献する可能性を探究した。

- ◆講 師：石黒 浩氏（大阪大学大学院教授、同大学荣誉教授）
- ◆開催日：2024 年 11 月 16 日
- ◆方 式：YouTube ライブ配信
- ◆テ ー マ：AI と人間



【講演内容】アンドロイドやロボットの技術開発を通じて人間の本質を探求してきた知見を披歴しつつ、「人間とは社会の中で他者との関わりを通じて人間となっていく存在であり、心は他者との親和的な関わりの中で生まれるものである」と指摘した。そして、自我は多様な他者（ロボットや AI を含む）との交流を通じて形成されていき、人間は生身の体の制約に縛られる存在ではないと論じた。また、遺伝子による進化よりも技術による進化の方が遥かに速く、人間は技術によって身体的制約から解放され、様々な「体」に宿る精神体として進化していく可能性について論究。こうした哲学的考察のもと、アバター技術による社会実装の事例を紹介し、高齢者や障がい者を含む誰もが参加できる「人間アバター共生社会」の実現を訴えた。

- ◆講 師：沖永 宜司氏（帝京科学大学学長、同大学理事長）
- ◆開催日：2024 年 11 月 30 日
- ◆会 場：YouTube ライブ配信
- ◆テ ー マ：AI であるとはどのようなことか



【講演内容】AI と人間の関係性について哲学的・宗教的な観点から考察を深め、「AI とは単なる機能的存在ではなく、人間のような『主体』や『内面性』を持ち得る可能性がある」という問題提起を行った。これは、従来の技術的な理解の枠組みを超えて、生命や意識の本質に迫る探究であると指摘。そして、テクノロジーの進歩が人間の存在や生命についての理解を根本から変えていく可能性を論じ、特に意識のアップロードや不死の問題など、生命の本質に関わる新しい課題について宗教的・倫理的な考察を展開。このような技術革新は、人間存在の根源的な変容をもたらす可能性があると述べた。さらに、信仰・宗教の立場から、科学技術の発展によって問い直される人間の尊厳や生命の価値について深く掘り下げ、AI の発展が加速する現代において、むしろ人間の精神性がより重要性を増してくると論じた。このような哲学的考察を通じて、科学技術と人間精神の調和的な発展の重要性を訴えた。

2020年から実施している東洋哲学研究所のオンラインでの連続公開講演会は、時間や場所の制約を超えて聴講できる点でも好評を博している。今回の講演会においても、国内はもとより、アジア、欧州、米州など世界各地から2,500人を超える視聴者が参加し、AI時代における人間と科学・宗教の調和という普遍的なテーマへの関心の高さが示された。

- ◆講師：亀田 多江（創価女子短期大学教授）
- ◆開催日：2024年12月14日
- ◆会場：YouTubeライブ配信
- ◆テーマ：生命尊厳の哲学を根幹にしたAI活用を目指して



【講演内容】創始者・池田SGI会長とアナトーリ・ログノフ博士による対談集『科学と宗教』を基盤として考察を展開。「科学は宗教と対立すべきものではなく、互いに協調して発展してゆくべきもの」というログノフ博士の洞察と、「人類の英知の探求は、ますます生命そして生死という最後のフロンティアへ焦点を移しつつある」という創始者の指摘を紹介しながら、AIと生命体の根本的相違点について論じた。さらに、創価女子短期大学における実践例として、高齢者福祉施設や保育園におけるロボット活用の取り組みに触れつつ、生命尊厳の哲学を基盤とした技術活用の意義を強調した。そして、創始者が提唱する「科学技術を人類のために導く智慧」の重要性に言及し、人間主義に根ざしたAI発展の展望を力強く提示した。

- ◆講師：師 茂樹氏（花園大学教授）
- ◆開催日：2024年12月21日
- ◆会場：YouTubeライブ配信
- ◆テーマ：死者への冒瀆なのか、新たな宗教体験なのか
：AIによる死者／聖人の再現をめぐる



【講演内容】AIによる死者や聖人の再現について、冒瀆なのか、あるいは新たな宗教体験となり得るのかを考察。その賛否を分析し、特に死者や聖者との伝統的な接点が失われつつある現代社会において、AIによる再現技術が持つ可能性と課題について論じた。また、死者への追悼や供養の本質を問い直し、それが「生者の都合」に過ぎないのではないかと投げかけた。AIによる死者・聖者の再現は、冒瀆的な表現を避けることを大前提としながらも、残された人々の喪失感を「調整」するものとして、あるいは社会的な問題解決の手段として、さらには多様で豊かな死者・聖者観を持つ可能性を秘めていると指摘。死生観は急速には変化しないという認識のもと、再現されたものに対する「違和感」の重要性を強調した。AIに使われるのではなく、AIを使う側の基軸として宗教・哲学が重要であるとの認識を示した。

研究部員会／研究グループ活動

研究部員会（オンラインにて開催）

- 6月18日 「『法華経写本シリーズ』の概要と意義」水船教義（委嘱研究員）
- 7月16日 「『立正安国論』とコロナパンデミック」佐藤弘夫（委嘱研究員）
- 9月17日 「物質性（マテリアリティ）と宗教および宗教研究」平良直（研究員）
- 10月15日 「オニール劇の女性たち—フェミニズムの視点から—」大野久美（委嘱研究員）
- 11月19日 「旧統一教会問題に対する諸教団の応答について」大西克明（研究員）
- 12月17日 「学生参加型オーラルヒストリーの可能性と課題」坂口貴弘（委嘱研究員）
- 2025年
- 1月21日 「牧口常三郎と宗教の合理性」蝶名林亮（研究員）
- 3月11日 「トインビー文明論の哲学的背景」石神豊（副所長）

グループ研究会

第1部門「仏教文献・仏教思想」研究

■第1グループ「仏教思想」研究（オンラインにて開催）

4月23日、5月7日、6月4日、7月2日、7月23日、9月24日、10月8日、11月12日、12月3日
2025年 1月14日 教材 *Readings of the Lotus Sutra*

■第1グループ「仏教思想」研究・第2グループ「日蓮仏教」研究 合同研究会 於：東洋哲学研究所

2025年

- 2月22日 「adhimuttiとvimutti」古川洋平（研究員）
- 「『弘賛法華伝』にみる隋唐時代の『法華経』信仰の一側面」松森秀幸（研究員）
- 「娑婆即寂光について」前川健一（研究員）
- 「『新版御書』新規収録御書の解題」小林正博（特任研究員）

第2部門「人類的課題と思想・哲学・宗教」研究

■第4グループ「平和・人権・ジェンダー」研究（オンラインにて開催）

9月21日 「性をめぐる自由と平等：常識の編み直しに向けて」池田弘乃（委嘱研究員）

■第6グループ「教育論」研究（オンラインにて開催）

2025年

- 3月2日 「幼児教育の「職」の魅力向上・発信事業」戸田有一（委嘱研究員）
- 「牧口常三郎とカント—カント生誕 300周年を記念して—」伊藤貴雄（研究員）
- 「エマニュエル・トッド、『西洋の敗北』を読む」寒河江光徳（委嘱研究員）

第3部門「仏教の現代的展開」

■第7グループ「宗教間・文明間対話」研究（東洋哲学研究所での対面及び一部オンラインにて開催）

4月30日 「三位一体の神学①」 山崎達也（主任研究員）

5月28日 「三位一体の神学②」 山崎達也（主任研究員）

■第8グループ「文明論」研究（オンラインにて開催）

9月24日 「文化・宗教概念の再考察—文化構築主義的視点より」井上大介（研究員）

11月26日 「構造概念と社会構造論理モデルの構成要素について」光國光七郎（委嘱研究員）

「共食を铸直す：インドにおける味わいを通じた接触の可能性に関する—考察」

山岸伸夫（委嘱研究員）

2025年

2月11日 「バクトリア出土の未知の文字について—クシャン時代の仏教遺跡の発掘から」

川崎建三（委嘱研究員）

レクチャー／市民公開講座

レクチャー（オンラインにて開催）

「社会と宗教」レクチャー

10月5日 「少子高齢化におけるウェルビーイング社会に貢献する健康管理センサー技術」

西山道子（創価大学准教授）

2025年

2月26日 「寄附新法——宗教活動と宗教経営に及ぼす影響」

櫻井圀郎（宗教と社会研究実践センター所長）

八王子学園都市大学「いちょう塾」

一般公開講座 於：東京・八王子市学園都市センター

6月15日 「わたしの生き方・あなたの生き方～憲法で『幸せ』について考えてみた～」上田宏和（委嘱研究員）

7月27日 「常識とは何か——善と悪・正義と差別に関する文化人類学的視点」井上大介（研究員）

「難民とはなにか？～国際社会における難民問題の歴史的な理解～」葛木文湖（委嘱研究員）

マラヤ大学文明間対話センターとの交流

6月26日、東洋哲学研究所が学术交流協定を結ぶマレーシア・マラヤ大学文明間対話センター（UMCCD）のアスマワティ・ムハンマド副所長一行が研究所を訪れた（写真）。

同センターとは2012年10月に交流協定を締結以来、継続的な研究活動が続けられている。アスマワティ副所長は「私たちも東洋哲学研究所と同じように共生や多様性について研究を進めています。相互での交流を進めながら、さまざまな形で研究活動が行われることを願っています」と語った。



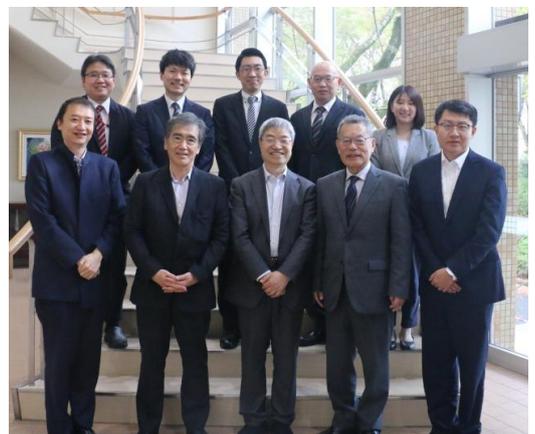
海外研究員による研究報告会



2・4「東洋哲学研究所の日」を記念する同研究所の海外研究員による研究報告会が2025年2月6日、オンラインZoomを活用して行われた（写真）。これには、イギリス、フランス、ドイツ、マレーシアの海外研究員が参加し、これまでの研究活動の報告と今後の研究活動の打ち合わせを行った。

中国・敦煌研究院との交流

中国・敦煌研究院一行が10月30日、東洋哲学研究所を訪れた（写真）。両機関は創業者・池田 SGI 会長と同研究院の常書鴻名誉院長が結んだ友誼以来、交流を続ける。「法華経——平和と共生のメッセージ」展では後援機関に。2017年以降は共催機関として協力。2018年9月には学术交流協定を締結し、同研究院で共同シンポジウム「敦煌と法華経」を開催した。前院長の趙声良党委書記は「東洋哲学研究所と敦煌研究院はこれからも法華経展やさまざまな研究活動を通じ、世界の平和と文化興隆に努めたい」と述べた。



スペイン学術者との交流

マドリード・カルロス 3 世大学のファン・ホセ・タマーゴ名誉教授が 11 月 21 日、東洋哲学研究所を訪問（写真）。これまでスペインのレリダ（2009 年）やマドリード（2012 年）で開催をしてきた「法華経——平和と共生のメッセージ」展の概要を紹介し、タマーゴ名誉教授の専門である「解放の神学」について懇談を行った。タマーゴ名誉教授は「西洋と東洋の哲学を結ぶ語らいが重要です。こうした交流によって新しい価値を創っていくことができればと願います」と語った。



韓国・宗教市民文化研究所と交流



韓国・慶熙大学宗教市民文化研究所一行が 2025 年 2 月 12 日、東洋哲学研究所を訪問した（写真）。宋在龍所長は「東洋哲学研究所が法華経展などで法華経の人間観を一般の方や若い人に伝えるのは、文明の危機と転換点にある今、大変に重要です。法華経の持つ意味を広く知らしめる活動です」と述べた。

海外からの来研者

6 月 26 日 マレーシア

Universiti Malaya Centre for Civilisational Dialogue

- ① Asmawati Binti Muhamad (Deputy Director, UMCCD)
- ② Siti Arni Basir (Senior Lecturer, Academy of Islamic Studies, UM)
- ③ Muhamad Alihanafiah bin Norasid (Senior Lecturer, Academy of Islamic Studies, UM)
- ④ Nadiah Binti Abdul Rahman (Lecturer, TAR UMT)
- ⑤ Nurliani Natasha Binti Muhammad Aris Fadzilah (Research Assistant, UMCCD)

10 月 30 日 中国 敦煌研究院

- ① 趙声良（党委書記、前院長）
- ② 王卓（保存研究所研究員）
- ③ 楊智杰（接待部職員）

11 月 21 日 スペイン

Universidad Carlos III de Madrid

- ① Juan José Tamayo (Profesor emérito)

2025 年 2 月 12 日 韓国

慶熙大学宗教市民文化研究所

- ① 宋在龍（所長）
- ② 徐東恩（研究団長）
- ③ 劉光錫（研究総括）

出版物

■ 『文明・歴史・宗教』

公益財団法人東洋哲学研究所編
2022年3月16日発行、定価：1,980円（税込）
ISBN 978-4-88596-061-1



■ 『日蓮の心』

公益財団法人東洋哲学研究所編
2022年11月18日発行、定価：1,500円（税込）、第三文明社刊
ISBN 978-4-476-06251-9



■ 『仏教東漸の道 西域・中国・極東篇』

公益財団法人東洋哲学研究所編
2024年12月20日発行、定価：4,500円（税込）
ISBN 978-4-88596-085-7



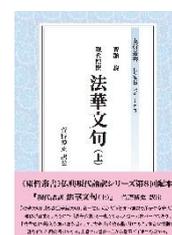
■ 『仏教東漸の道 インド・中央アジア篇』

公益財団法人東洋哲学研究所編
2023年3月20日発行、定価：4,500円（税込）
ISBN 978-4-88596-067-3



■ 『現代語訳 法華文句（上）』

菅野博史 訳注
2024年10月8日発行、定価：8,000円（税込）
ISBN 978-4-88596-086-4

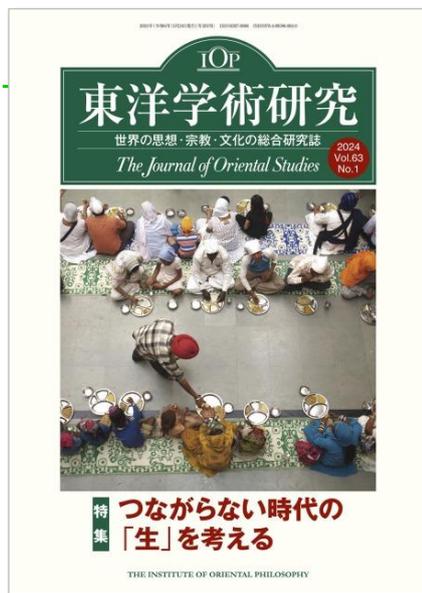


■ 『現代語訳 法華玄義積籙（下二）』

菅野博史・松森秀幸 訳注
2023年11月18日発行、定価：7,700円（税込）
ISBN 978-4-88596-069-7



定期刊行物



東洋学術研究 第63巻 第1号(通巻192号)

ISBN 978-4-88596-084-0

定価：1,400円(税込)

■巻頭は2023年11月に逝去した東洋哲学研究所の創立者・池田SGI会長に対する、中国とロシアの識者による追悼文等を掲載する。

■特集では「つながらない時代の「生」を考える」をテーマに、生が危ぶまれるようなつながらない状況を捉え、そのなかで人はいかに固有の生を生きていくことができるのかを論じる。「21世紀の精神のシルクロード——平和への道筋を考える」では、2023年に開催された東洋哲学研究所の連続公開講演会での講演録4本を収録。平和に向けた心をつなぐ営みとして、他者への想像力を養うことや、知られざる交流史を紡ぐこと、尊厳のために知恵をしぼること、自身の意識と心を変革することなどが語られる。

主な内容

■追悼

創立者と共に「世界の東哲」へ……………桐ヶ谷章（顧問・前所長）
池田大作先生と敦煌……………趙声良（敦煌研究院党委書記・前院長）／訳・生田貴穂（翻訳家）
池田大作先生の生涯を偲んで……………
……………イリーナ・F・ポポワ（ロシア科学アカデミー東洋古文書研究所所長）／訳・橋本信一（東海大学准教授）

■特集 つながらない時代の「生」を考える

再考 大規模災害における生のレジリエンスと人のつながり……………宮城孝（委嘱研究員）
つながりの現象学——ケアのコミュニティを考える……………稲原美苗（神戸大学准教授）
「つながり」の現在地……………開沼博（東京大学大学院准教授）
特集総論 つながらない時代の「生」を考える……………山岸伸夫（委嘱研究員）

■21世紀の精神のシルクロード——平和への道筋を考える（連続公開講演会より）

思考の危機と危機の思考——哲学の終わりなき挑戦……………齋藤元紀（高千穂大学教授）
日本とウクライナ——過去・現在・未来……………岡部芳彦（神戸学院大学教授）
二つの戦後と「人間の尊厳」——社会統合の新たな理念としての「尊厳」……………加藤泰史（椋山女学園大学教授）
誰一人取り残さない経済の創出に向けて——開発途上国における女性のエンパワーメント……………
……………内海友子（創価大学准教授）

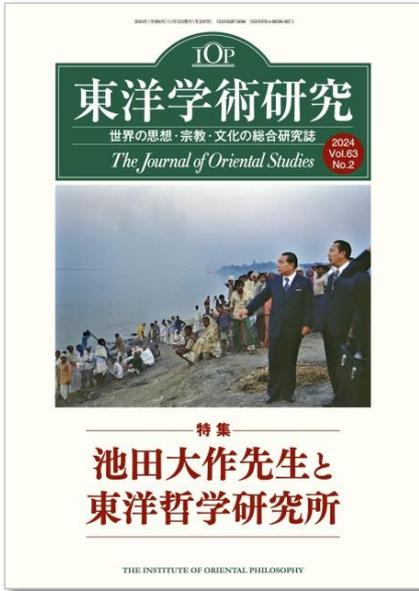
■思想の扉 アヴィセンナ／イブン・シーナー（980-1037）

アヴィセンナの東方哲学とその運命……………小村優太（早稲田大学准教授）

■コラム シルクロード（絲綢之路）⑤

アジャント壁画……………大村次郷（写真家）

定期刊行物



東洋学術研究 第63巻 第2号(通巻193号)

ISBN 978-4-88596-087-1

定価 :1,400 円(税込)

■東洋哲学研究所創立者・池田 SGI 会長の一週忌の意義を込め、特集「池田大作先生と東洋哲学研究所」を掲載。SGI 会長と対談集を編まれた識者による寄稿文のほか、SGI 会長による海外の大学講演や、当研究所が進めてきた「法華経写本シリーズ」、法華経に関する学術的展示等についての論文 6 本を取り上げる。

■2024 年 5 月に開催した学術大会記念シンポジウム「AI と信仰・宗教・思想」での発表録 4 本とパネルディスカッションを収録。ここでは、AI と人間の課題から、痛みを味わい真の幸福を分かち合う生き方、人間にしかできないこと、宗教だからこそ可能なこと、人知を超えるものとの経験（宗教文化）の重要性、「経験」概念の立て直し等について語られている。

主な内容

■特集 池田大作先生と東洋哲学研究所

特集にあたって…………… 山岸伸夫（出版事業部）

【対談を振り返って】

人間主義の旗を……………フェリックス・ウンガー（ヨーロッパ科学芸術アカデミー名誉会長）／訳・出版事業部

対話——他者にも耳を傾けよ… アクシニア・D・ジュロヴァ（ブルガリア科学アカデミー会員）／訳・二宮由美（主任研究員）

【創立者の学術的活動】

創立者の海外大学講演に見る「人格」と「形成」…………… 田中亮平（所長）

池田大作先生と『東洋学術研究』

創立者の「文明間対話」シリーズ

【法華経原典の写真版とローマ字版を刊行】

「法華経写本シリーズ」の概要と意義…………… 水船教義（委嘱研究員）

『法華経』サンスクリット写本研究の現況について…………… 工藤順之（創価大学国際仏教学高等研究所教授）

【法華経についての展示会の開催】

普遍宗教としての仏教への回帰——「法華経展」に寄せて…………… 保坂俊司（中央大学教授）

「法華経——平和と共生のメッセージ」展に見る仏教とイスラームの文化・宗教交流…………… 蔦木栄一（委嘱研究員）

■AI と信仰・宗教・思想（第 38 回学術大会シンポジウムより）

無痛社会と人工共感——痛みを感じる AI はシンギュラリティなのか？…………… 篠宮紀彦（委嘱研究員）

仏教の世界にあって AI は何ができるのだろうか…………… 山本修一（主任研究員）

人工知能の得体の知れなさにいかに向き合うか——「存在」と「痛み」が変容するなかで考える… 濱田陽（帝京大学教授）

LLM-AI の言語世界と言語（こと-ば）の経験…………… 犬塚潤一郎（実践女子大学教授）

■思想の扉 マイスター・エックハルト（1260-1328）

エックハルトは聖体の秘跡をいかに理解したのか…………… 山崎達也（主任研究員）

■コラム シルクロード（絲綢之路）⑥

天翔ける猿たち…………… 大村次郷（写真家）

The Journal of Oriental Studies vol.34

ISBN 978-4-88596-088-8

定価: 2,200 円(税込)



Main Articles

■Feature: Dialogue of Civilizations and Its Significance

- The Humanist Principle.....Felix Unger
 The Dialogue: *Audiat et altera pars* – May the Other Side Also be Heard...Axinia D. Djourova
 Islam, Peace, and Harmonious Coexistence: The Quran's Perspective.....Osman Bakar
 The Philosophy of the Lotus Sutra and the Significance of Dialogue between Civilizations.....
Ryohei Tanaka
 The Evolution of Belief Systems: A Journey through Human Thought and Spiritual Discovery...
Nurul Ain Norman
 Building a Network of Harmonious Coexistence: Reflections on Dr Daisaku Ikeda's Philosophy of Peace.....Christopher Chiong-Meng Boey

■Artificial Intelligence (AI) and Faith, Religion, and Thought

From the Symposium in Conjunction with 38th Annual Academic Conference of the IOP

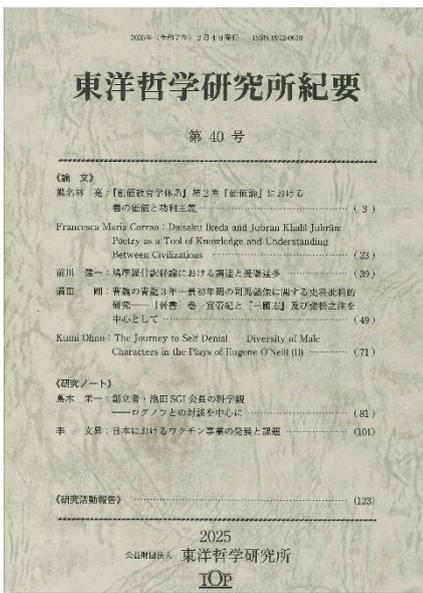
■The IOP and the 'Lotus Sutra Manuscript Series'

■Contributions

東洋哲学研究所紀要 第40号

ISSN 0912-0610

(非売品)



《論文》

- 『創価教育学体系』第2巻「価値論」における善の価値と功利主義.....
蝶名林 亮 (研究員)
 ■Daisaku Ikeda and Jubrān Khalīl Jubrān: Poetry as a Tool of Knowledge and Understanding Between Civilizations.....
Francesca Maria Corrao (海外研究員)
 ■鳩摩羅什訳経論における調達と提婆達多.....前川 健一 (研究員)
 ■曹魏の青龍3年～景初年間の司馬懿像に関する史料批判的研究——『晉書』卷一宣帝紀と『三國志』及び裴松之注を中心として.....満田 剛 (委嘱研究員)
 ■The Journey to Self Denial——Diversity of Male Characters in the Plays of Eugene O'Neill (II)Kumi Ohno (委嘱研究員)

《研究ノート》

- 創立者・池田 SGI 会長の科学観——ログノフとの対談を中心に.....
蕪木 栄一 (委嘱研究員)
 ■日本におけるワクチン事業の発展と課題.....李 文昇 (委嘱研究員)

《研究活動報告》

研究論文を検索システム「論文BOX」で公開



東洋哲学研究所は、長年の研究成果を広く社会に還元し、学術研究や調査への活用を目的として、ホームページ上に論文検索システム「論文BOX」を開設した。当研究所の主要刊行物『東洋学術研究』『THE JOURNAL OF ORIENTAL STUDIES』（『東洋学術研究』英語版）『東洋哲学研究所紀要』に掲載された主な研究論文をPDFファイルで公開している。

検索システムは、タイトルや執筆者名の一部をキーワードとして入力することで論文を検索できる。また、仏教思想、比較思想、平和研究などのジャンル別検索にも対応している。創立者・池田SGI会長をはじめ、執筆者名での検索も可能である。検索結果から論文を選択すると、オンラインでの閲覧およびダウンロードができる。

<利用にあたって>

- ・PDFファイルは論文掲載時のものを収録
- ・論文内の肩書は掲載当時のもの
- ・著作権保護のため、転載、複製、翻訳、販売、貸与、内容の変更は禁止

 **東洋哲学研究所 公式 Instagram**
@totetsu_iop_official



東洋哲学研究所の公式 Instagram（インスタグラム）アカウント「@totetsu_iop_official」では、研究所の学術・文化活動を写真や動画を通じて世界に向けて発信している。フォロワー数は1,000人を超え、国内外からの関心が高まっている。

公式アカウントでは、世界17カ国・地域で巡回してきた「法華経——平和と共生のメッセージ」展の開幕式や展示風景、累計鑑賞者数100万人達成を記念した映像などを配信。また、最新の学術研究の成果を紹介する連続公開講演会の募集案内や、研究所が刊行する各種出版物の紹介なども行っている。法華経写本の紹介や国際シンポジウムの開催の様態など、研究所ならではのコンテンツを随時更新している。

投稿は、東洋思想・仏教研究の新たな発信拠点として注目を集めている。ぜひフォローしていただき、今後の研究所の活動にご注目いただきたい。



公益財団法人東洋哲学研究所

〒192-0003 東京都八王子市丹木町 1-236

Tel: 042 (691) 6591 Fax: 042 (691) 6588

メールアドレス: iop_info@iop.or.jp

日本語サイト: <https://www.totetu.org/>

英語サイト: <https://www.totetu.org/en/>



公益財団法人東洋哲学研究所

THE INSTITUTE OF ORIENTAL PHILOSOPHY